

# 保育者の資質向上における アクティブラーニング型授業での 「プレイルーム」マネジメントを通じた保育実践力の育成

古屋祥子（山梨県立大学）

田中 謙（山梨県立大学）

キーワード：保育者の資質向上 アクティブラーニング型授業 プレイルームマネジメント  
保育方法 子育て支援

## 要 旨

本稿では授業実践報告として20XX年度に行われた「B基礎演習Ⅱ」の授業実践内容を報告した。特に保育者の資質向上における養成段階での大学の自主性、独自性を発揮した教育内容について着目して報告を行った。

その結果、保育方法の実践的学習に関しては、制作した遊具を組み合わせることで保育の環境を構成する実践的学習を行っていること、またプレイルームマネジメントを通して、「トップマネジメント」「ミドルマネジメント」「ローマネジメント」等多層的なマネジメントやリーダーシップやフォロアシップを学ぶことができていたと推測された。

## I 問題の所在

本稿は、幼稚園教諭養成課程および保育士養成課程を有するA大学B学科の授業実践報告を通して、保育者の資質向上における養成段階での「プレイルーム」マネジメントを通じた保育実践力の育成について考察することを目的とする。

教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会による「教職課程コアカリキュラム（案）」（平成29年6月29日）によれば、日本の教員養成は教育に「幅広い視野と高度の専門的知識・技能を兼ね備えた高度専

門職」である教員が当たるため、教職課程では「学芸と実践性の両面を兼ね備えていること」が必要であり、「常にこの二つの側面を融合すること」により高い水準の教員を養成することが求められてきた。厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」（平成27年3月31日雇児発0331第29号）には、指定保育士養成施設は「保育に関する専門的知識及び技術を習得させる」こととともに、「専門的知識及び技術を支える豊かな人格識見を養う」ため、「必要

な幅広く深い教養を授ける高等専門職業教育機関としての性格を有する」とされている。

「教職課程コアカリキュラム (案)」 「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」 いずれにおいても、保育者の養成段階を担う養成校には「専門的知識」と「技能」を兼ね備えた「高度専門職」の養成が可能な教育機能が求められていると考えられる。この教育機能に関連しては、「教職課程コアカリキュラム (案)」に「大学の自主性や独自性を発揮した教育内容を修得させること」が「当然」と示されており、幼稚園教諭養成課程および保育士養成課程で全国共通の必修科目の充実だけでなく、大学の自主性、独自性を発揮した教育内容の充実も検討することが必要であると解釈できる。

A大学B学科においても、大学の自主性、独自性を発揮した教育内容の充実を図り、「力量ある保育者養成教育」(沢登他,2012)を実現するための取り組みの一環として、大学が独自に設定する科目を配置している。この科目の一つが本稿で事例とする「B基礎演習Ⅱ」である。A大学B学科では第一学年にB学科の学科名を配した科目「B基礎演習Ⅰ」を前期に、「B基礎演習Ⅱ」を後期に配当している。前期配当科目「B基礎演習Ⅰ」は主に地域フィールドワーク研究やグループワーク演習等の各種の「アクティブラーニング型授業」(森・溝上編,2017)を取れ入れ、B学科の「学問分野への関心を深め」、「有意義な大学生活の基盤作りを行う」ことを目的とする科目である。「B基礎演習Ⅱ」は「B基礎演習Ⅰ」を受けて、同様にアクティブラーニング型授業の手法を取れ入れながら、「プレイルーム」マネジメントを通じた保育実践力を育

成する科目としての性格を有している。

本稿ではA大学B学科で20XX年に実施した「B基礎演習Ⅱ」を事例とした「プレイルーム」マネジメントに関する授業実践報告を通して、保育者の資質向上における養成段階での大学の自主性、独自性を発揮した教育内容について考察を行うこととする。

## Ⅱ 先行授業実践報告の整理・検討と本報告の独自性

### 1 先行授業実践報告の整理・検討

大学における保育実践力の向上に関連する授業実践報告は数多くなされている。例えば「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」に規定された「保育内容総論」に関しては、保育者養成校での保育の質を向上させる授業として、「複数担任制(チーム制)」と「模擬保育」に着目した大嶋・芝田(2017)の報告等があげられる。

また大学独自に設定した科目に関しては、新山・関崎(2003)「保育内容総合演習」、矢萩(2013)「総合演習」、井上(2015)「保育職基礎演習Ⅰ」、真下他(2016)「初年次演習(基礎)」等があげられる。

新山・関崎(2003)は「学生が体験を通して自ら学ぶことをめざした1つの先駆的な授業モデル」として大学独自開講科目「保育内容総合演習」について報告している。報告の中では、同科目を通して「反省、課題、喜び、達成感、協力、交流、気づき、理解、工夫、楽しさ、感動、問題発見などの学びの実感」を学生が得たことを事後レポート分析から示している。

矢萩(2013)は大学における「総合演習」授業において開設された、正規の実習教育

以外の場合で保育者の援助や役割について実践的に学ぶための本格的な保育の場を目指した2歳児保育室「あそびば『ほこあ』」の2年間余りの授業実践について報告しており、保育室の成果として「子ども・学生・保護者いずれにとっても相応の意義を有する」ことから、「保育者養成機能と子育て支援機能が相互に成り立ちうること」を示唆している。

井上(2015)は「児童文学・絵本の世界を体験する」と題し、少人数グループ単位で絵本の紹介・読み聞かせを体験することを通して「絵本について主体的な学びを触発しようと試みた」、「保育職基礎演習Ⅰ」の授業実践報告を行っている。同報告では実践を通して「いろいろな絵本にふれた経験から、最近図書館を利用する人やボランティアを通して自分の中に内包するものを増やしたいという意欲的な学生の様子が見えるようになった」等の成果が示されている。

真下他(2016)は「高校から短大への転換を促すこと」「短大での学習に必要な基礎的なスタディ・スキルの習得」をねらいとした「初年次演習(基礎)」の報告をしている。報告では、「学生自身が自分の専門分野や就職後に必要となる力」を検討し、「一人ひとりが主体的に学ぶ姿勢を身に付けること」「そのために必要となる学習のスキル(考える・読む・書く・聞く・話す)の習得」をめざした実践のプロセスが示されている。

いずれの報告も各大学等での保育者養成における課題意識から自主性、独自性を発揮した独自設定科目が、短期大学が多いことが読みとれる。またいずれの報告も「アクティブラーニング型授業」形態と考えられ

る実践である点も共通と考えられる。

## 2 本報告の独自性

本報告のA大学B学科「B基礎演習Ⅱ」も上述の授業実践報告と同様の特質を有する大学独自科目であると考えられるが、異なる点は保育実践力としての保育方法の実践的学習とマネジメントに着目している点である。

保育方法の実践的学習に関しては、本科目は「プレイルーム」で遊具制作を行い、それらの遊具を組み合わせる保育の環境を構成する実践的学習を行うものである。その際には一年次から対象年齢に応じた遊具の遊び方を検討したり、動線を考慮したりしながら環境構成を行い、実際の乳幼児、児童を対象に遊びに関する援助を行う実践的学習が取り入れられている。また「プレイルーム」はA大学の学園祭に合わせて2日間実践がなされるが、学園祭前にA大学が所在するC市の幼児教育センターにおいて2歳児を対象にプレ実践を行っている。つまり実際の子育て支援の場でも遊びの援助を行うのである。

このように「B基礎演習Ⅱ」は幼児への実践的援助を行う学習が組み込まれており、一年次から保育方法について体験を通して学習することが計画されているのである。

また「B基礎演習Ⅱ」ではプレイルームマネジメントを学生が行う点も特徴的である。

P.F.ドラッカー(2001)はマネジメントには「自らの組織をして機能させ、社会に貢献させるうえで三つの役割」があるとし、①「企業、病院、大学のいずれであれ、自らの組織に特有の目的と使命を果たす」(the specific purpose and mission of the institution)

②「仕事を生産的なものにして働く人たちに成果を上げさせる」(making work productive and the worker achieving)

③「自らが社会に与える影響を処理するとともに、社会の問題解決に貢献する」(managing social impact and social responsibilities)

の3点をあげている。

このようなマネジメントに関する理論は、近年教育、福祉現場でも参考とされている。

例えば、文部科学省「マネジメント研修カリキュラム等開発会議」(2005)では、「組織マネジメント」の焦点を「自らが変化し続けること(環境と折り合いをつけながら)」とし、求める目的に向かって効率的・効果的に組織全体が動くために、組織内外の刻々と変化する環境からの規制作用や影響に対して、的確な情報解析をもとに、それらをうまく受け入れたり回避したりしながら、内外の資源(人的、物的、財的、情報、ネットワーク)や能力を統合、開発し、人々の活動を調整すること(活動や機能)としており、学校における組織マネジメントとして、「学校の有している能力・資源を開発・活用し、学校に参与する人たちのニーズに適応させながら、学校教育目標を達成していく過程(活動)」と示している。さらに学校経営の中で「環境との相互作用、そのなかでも外部の支援的要因と内なる強みの連合」「計画(Plan)－実施(Do)－点検・評価(Check)－更新(Action)のマネジメント・サイクル、とりわけ次の一手(Action)」「その過程を円滑化するスキル(技術)やストラテジー(戦略や方略)」「進むべき方向を示すミッション(使命・存在意義)とビジョン(目指すところ)」を強調する概念と整理して

いる。

また社会福祉法人東京都社会福祉協議会「区市町村社協におけるマネジメント機能を高めるために」(2002)では、「組織の使命とそれに基づく目標達成のために経営諸資源(人・もの・金等)を最大限に活用し、最大の成果をあげるための考え方、手段・方法」と定義されている。またマネジメントに関しては、「ありたい姿」に向かって「なぜ」と「どうする」を繰り返して試行錯誤することであり、「使命・ビジョン・目標に向かって試行錯誤を繰り返すこと」と説明されている。このように教育、福祉現場でマネジメントの重要性が指摘され、組織経営に関する研修等で教員や保育士等を対象にマネジメント力の向上が図られている。

さらに2017(平成29)年改訂「保育所保育指針」(平成29年厚生労働省告示第117号)で「保育所においては、当該保育所における保育の課題や各職員のキャリアパス等も見据えて、初任者から管理職員までの職位や職務内容等を踏まえた体系的な研修計画を作成しなければならない」ことが盛り込まれ、国も厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課長通知「保育士等キャリアアップ研修の実施について」(平成29年4月1日雇児保発0401第1号)に基づき取り組みが始められている保育士等キャリアアップ研修でも、ミドルリーダー養成を目指した「マネジメント研修」が研修内容に組み込まれている。

このように今日の保育者養成、現職研修等ではマネジメントの重要性が高まっており、具体的な保育者のマネジメント力向上が図られている中で、本科目では「ブレイルーム」マネジメントを通してマネジメントについても意図的に享受する学習内容が

組み込まれている点特徴的であるといえる。

本授業実践科目「B基礎演習Ⅱ」では、マネジメントを「経営と管理の両側面を含む概念」ととらえ、「社会への貢献を視座に、組織の目的、目標を達成するため、諸資源の開発、活用を通じて、組織の発展、事業継続を図る過程」と定義し<sup>(1)</sup>、授業実践を行った。

### Ⅲ 方法

本稿は授業実践報告として20XX年度に行われた「B基礎演習Ⅱ」の授業実践内容を報告する。授業実践内容はシラバスの説明と実際の活動状況について主に報告を行うこととする。

報告に際してはA大学B学科1年次生・古屋・田中編（20XX）のマニュアル内容を参照して、適宜引用することとする。

### Ⅳ 授業実践内容

#### 1 授業概要

まずは「B基礎演習Ⅱ」のシラバスから、授業の性格について報告する。「B基礎演習Ⅱ」はA大学B学科1年次後期設定の必修科目であり、1単位（30時間）設定である。同科目は授業でのプレイルーム準備を行い、A大学で20XX年11月に行われた学園祭（2日間）でプレイルームを実施した。

また科目はA大学の地域における子育て支援等の課題についても学ぶ「地域実践科目」にカテゴライズされている。

#### (1) 科目の目的

「B基礎演習Ⅱ」は、「B基礎演習Ⅰ」での全体活動を引き継ぎ、主にプレイルーム経営を行う。教員はプレイルーム経営に必要な経営方法、計画策定、実践に係る指導および助言を行う。また子育て支援における

プレイルーム経営を通して、学生の幼児教育・保育、子育て支援に関する実践および研究に対する意欲と関心、真理を探究する態度を培うこと」を目的として設定している（なお、科目名に関しては仮科目名とした）。

#### (2) 到達目標・評価

到達目標は、「知識・理解」に関しては「プレイルーム経営を通して、乳幼児および幼児教育・保育における知識を習得するとともに、子育て支援に関する理解を深めることができる」、「思考・技能・実践」に関しては「自らプレイルーム経営に関する目的および目標を設定し、実践を通して実証的・多角的に分析、検証する経験を積み、実践技能を身につけ、批判的な考察をすることができる」、「態度・志向性」に関しては「主体的にプレイルーム経営に関与する態度を身につける。特に協働的に制作活動に取り組むことができる」の3点を設定している。

授業は主にプレイルーム経営、子育て支援講座、振り返りを基にしたマニュアル作成が学習活動の中心となるため、評価はマニュアル作成とプレイルーム経営、子育て支援講座に関するレポート作成で行っている。

#### (3) 授業内容

授業内容に関しては、以下の15回が設定され実施された。

なお上記授業内容以外に、A大学の所在するC市の幼児教育センターにおいて2歳児を対象とした子育て支援講座2ヶ所に、学生が2グループ編成で参加してプレイルームのプレ実践を行っている。

表1 「B基礎演習Ⅱ」授業内容

第1回	オリエンテーション
第2回	前年度までのプレイルームに関する学習
第3回	プレイルーム実施計画策定
第4回	プレイルーム制作①—外装—
第5回	プレイルーム制作②—内装—
第6回	プレイルーム制作③—遊具制作（トンネル）—
第7回	プレイルーム制作④—遊具制作（可動遊具）—
第8回	プレイルーム制作⑤—遊具制作（仕掛け遊具）—
第9回	プレイルーム運営①—模擬運営—
第10回	プレイルーム運営②—模擬運営の振り返り—
第11回	プレイルーム運営③—地域での実践①—
第12回	プレイルーム運営④—地域での実践②—
第13回	プレイルーム運営⑤—実践の振り返り—
第14回	プレイルーム引き継ぎマニュアル作成
第15回	プレイルーム経営の総括

(4) 授業実践の状況

プレイルームマネジメントはまず第1回のオリエンテーションで、対象は主に2歳児を想定しながら就学前期の乳幼児であり、併せて小学校期の児童も当日は参加すること、ダンボール遊具を中心とした構成になること等の授業説明を行い、第2回目の授業で前年度までのプレイルームの振り

返しを行う。振り返りでは前年度のマニュアルについても前年度担当学年の代表者（2年次生）が授業時に説明を行い、昨年度のプレイルームマネジメントに関する「実践知」を人とマニュアルの双方から1年次生へ伝えている。つまり「組織知」の共有を図る仕組みとなっている。

一年次生は前年時までのプレイルームマ



Fig.1 テーマ「乗り物の世界」



Fig. 2 プレイルームの様子

マネジメントを参考に、運営目的、テーマ、遊具、担当者等の設定を行っていく。20XX年度はまず運営目的を「すべての子どもに乗り物の世界観を感じてもらいながら、楽しく安全に遊んでもらい、また、保護者の方の休憩スペースともなれること」に設定した。

そして、「遊具のイメージが多く湧いた」こと、「乗り物の世界観が伝えやすい」と考えたこと、「乗り物といえば『車』が思い浮かべられることが多いが、そのほかにもさまざまな種類があることを伝えたかった」ことから、テーマは「乗り物の世界」に設定した。

またプレイルームマネジメントでは、全体を統制するリーダー（以下、統括リーダー）2名、各遊具（装飾担当を含む）の制作を統制するリーダー（以下、制作リーダー）を7名設定している。リーダー以外の構成メンバーは、各遊具制作グループ内で、それぞれ役割分担に応じて担当内容の統括を相互に行っている。また統括リーダー、制作リーダーと常に打ち合わせを行いなが

ら、経費報告等に必要の物品の使用状況等を各自で管理している。そのため、プレイルームマネジメントでは、それぞれ統括リーダーのプレイルーム全体の指揮・統制を通じた「トップマネジメント」、制作リーダーのトップ・ロー間での調整を含めた「ミドルマネジメント」、各遊具制作における役割分担での相互指揮・統制を通じた「ローマネジメント」等多層的なマネジメントを学ぶ組織編成がなされている。

実際の遊具としては、「デザインと遊具を並行して決めたため、乗り物を使ったデザインの遊具にできそうかどうか」、「どの年齢層の子どもも楽しめる遊具であるか」、「比較的男の子のほうが乗り物に興味があると感じたため、かわいい雰囲気を出せるような遊具も制作する」こと等を話し合い、「ボーリング（車）」「魚釣り（海賊船）」「輪投げ（気球）」「玉入れ（バス・トラック）」「モグラたたき（ロケット）」「トンネル（電車）」「壁面装飾」の制作となった。

以下では一例として「魚釣り（海賊船）」をあげると、次のようになった。

Table 1 「魚釣り (海賊船)」の制作

制作内容・遊び方	制作過程
<p><b>【制作内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海賊船</li> <li>・釣竿</li> <li>・さかな</li> </ul> <p><b>【遊び方】</b></p> <p>海賊船に見立てた船の中から、釣竿を使って魚を釣る。</p>	<p><b>【海賊船】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 冷蔵庫のような大きい家電の段ボールを船のサイズに切り取る。</li> <li>② 絵の具を使い片面を黒く塗る。</li> <li>③ 切り取った段ボールの端にキリで穴を開け、ヒモで編み上げる。</li> </ol> <p><b>【釣竿】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 新聞紙やチラシを使用し、細く巻く。</li> <li>② その上からクラフトテープを巻き、タコ糸と磁石をくくりつける。</li> </ol> <p><b>【魚】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 色画用紙に魚を書く。</li> <li>② ハサミで切り取り、破損しないようビニールテープを裏表に貼る。</li> </ol>



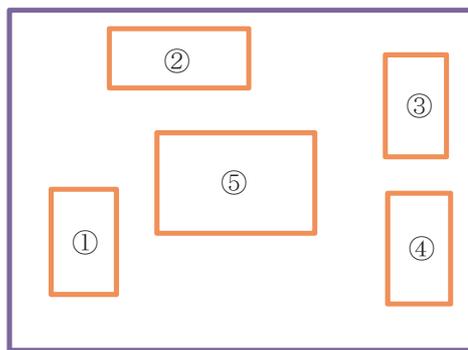
Fig. 3 「魚釣り (海賊船)」様子

## 2 子育て支援講座での実践

本科目では授業内で授業担当教員がC市から講座講師の依頼を受けている幼児教育センターにおいて、子育て支援講座の1回

としてプレ実践を行っている。

20XX年度は11月に学生16名参加で、2歳児保護者と子ども12組を対象にC市北部幼児教育センターで実践を行った。



- ① トンネル
- ② 魚釣り
- ③ ボーリング
- ④ ロケットたたき
- ⑤ カーペット

(絵本と紙芝居を置いておいて遊びに飽きたこどもが遊べるスペースを作る)

Fig. 4 C市北部幼児教育センターでの実践

Table 2 C市北部幼児教育センターでの実践

時間	内容
導入 (15分)	①手遊び ②体ほぐし 手足ぶらぶらとおしりふりふりをして、そのあと手をぶらぶらさせながらしゃがんだり回ったりする。最後に全部をいっぺんに動かす。 ③おかあさんのおふね リズムに合わせて保護者と子どもが体をほぐす。 ④バスに乗って 乗り物がテーマなのでその遊びにつながるように行う。
遊び (45分)	⑤自由遊び (段ボール遊具) ・魚釣り ・ボーリング ・もぐらたたき ・トンネル (2両) ・絵本と紙芝居 (1冊使用)

マニュアルでは、「全体的に飽きる子どもはほとんどおらず時間が過ぎたことを告げると、もっと遊びたいと言ってくれる子もいた。各遊具でけがはなかったが、安全面などでの課題が見つかった。導入などを前もって練習していたので当日スムーズにできてよかったが、もっと子どもの反応を

取り入れながら臨機応変に対応できたらよかった。」との振り返りがなされた。

### 3 マニュアル作成

学園祭でのプレイルーム実施後、授業内では子育て支援講座、プレイルームに関する振り返りが行われ、振り返りをもとにマニュアル作成が全員で行われた。

Table 3 「魚釣り（海賊船）」の制作における振り返り

<p>1. 幼児教育センターでの実践</p> <p><b>【良かった点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・魚のバラエティが富んでいたため、子供たちに長時間楽しんでもらえた。</li><li>・船の中が秘密基地のような雰囲気だったためか、居心地がいいと感じる子どもが多かったように思えた。</li><li>・船を折りたたむ仕組みにしていたことで、持ち運びが非常に楽だった。</li><li>・船の壁にあけた穴に興味を示してもらえたり、恐怖感を半減できたりしたのではないか。</li></ul> <p><b>【反省点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・魚についていたクリップが動いてしまうことがあった。</li><li>・魚のクリップをつける位置がバラバラであったため、子供に釣竿を磁石を近づける位置を説明しづらかった。</li><li>・釣竿についている磁石がとれてしまうことがよくあった。</li><li>・子どもが釣った魚をどのタイミングでブルーシートに戻すかが定まっていなかった。</li><li>・1ゲームをどこで区切るかなど、ゲーム性が確立されていなかった。</li><li>・段ボールの壁が非常にもろく、危険な場面があった。</li></ul> <p>2. プレイルーム実践</p> <p><b>【良かった点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・どの年齢層の子どもにも比較的人気だった。</li><li>・魚の一部分にオーロラ折り紙を使用したことで、特別感を出せたのではないか。</li><li>・子ども1人1人に合わせた臨機応変な対応ができた。(例)当初は時間制限を設ける予定であったが、集客状況に合わせて子供たちが長時間いられるような工夫をした。</li><li>・旗を船の外に出したことで、倒れた時の危険を回避した。</li></ul>
--

- ・バラエティに富んだ魚を用意したことで、幼児教育センターと同様に多くの子どもたちに視覚的にも楽しんでもらうことができた。

#### 【反省点】

- ・旗が倒れやすかった
- ・船の壁が、子どもが寄りかかると折れてしまうほど強度が弱いままであった。
- ・魚の大きさがどれも一緒に、「クジラとエビがどうして同じ大きさなの？」と指摘されてしまう場面があった。
- ・釣竿が長く、釣りづらそうな場面が見られた。
- ・魚のサイズが大きく、釣り上げるのが難しいものがあった。
- ・川にいる魚と海にいる魚が混在していたため、「この魚は海にはいない」と指摘される場面があった。
- ・事前にさかなつりを始める前に、注意事項などを説明する段取りでいたが実際は話を聞く前に船に入ってしまうためうまくいかなかった。

#### 3. 安全管理

- ・全体的に船の壁が脆く、折れてしまう場面がありもう少し強度を上げるべきだった。
- ・旗を作成したが、非常に倒れやすく幼児教育センターにおいては子どもたちに当たってしまいそうな場面もあったため、土台をもう少ししっかり作るべきだった。
- ・釣竿を子どもたちが振り回してしまいやすく、釣竿の先の磁石が当たってしまいそうな場面が見られた。

#### (1) 「魚釣り（海賊船）」の制作における振り返り

振り返りは必ず自分たちの実践の「良かった点」「反省点」の両側面の振り返りを行い、今後実践上の課題を明示化するように指導を行った。

また「安全管理」項目を必ず設定し、現場での実践におけるリスクマネジメント能力の育成に関しても意識をもたせるようにしている。

#### (2) 参加者・経費

プレイルームに関しては、20XX年度は1日目48人、2日目37人の計85人（前年度67人）の参加がなされた。増員に関する振

り返しとして、学生は「前年度等参加者の再訪」「チラシ配り、手作りの看板による宣伝」「廊下での呼び込み」を来場者数増加の要因として振り返っており、アンケート結果では回答者全てからプレイルームの内容に関する満足が得られたと振り返っている。

また、プレイルームマネジメントでは、用いた材料費等もすべて概算ではあるが記録し、分析を行っている。当概年度の経費は36,634円（前年度34,727円）であった。学生は「お金に対する意識の低さ」（あらかじめ物の値段を把握しておけば、もっと経費を少なくする工夫ができた）、「安全面の重視」（遊具がこわれたり、掲示物がは

がれたりして子どもや保護者に怪我をさせないように、テープ類を多用してしまった)、「ジャンボロール、竹ひごの多用」(装飾で使ったジャンボロールと、ボーリングのボール代わりの車の補強のために使った竹ひごの費用が思ったよりも高かった)、「遊具の大型化」により経費増加につながったと振り返っている。

このような利用者の把握や経費に関するコストマネジメントも同科目では実施しており、保育現場における保育実践力として

のマネジメント能力向上を1年次から考える機会を設定している。

### (3) 教室環境のマネジメント

さらに「B基礎演習Ⅱ」では、準備作業に活用する「造形室」「絵画実習室」の2つの教室利用における環境整備に関するマネジメントも課題として設定している。

学生は実践後、Table 4のような振り返りを行った。

Table 4 教室利用における環境整備マネジメント

今年度、造形室と絵画実習室の使い方があまり良くなく他の団体や先輩方に迷惑をおかけする場面があったため、2つの部屋の使い方についても一度考え反省点と来年度への注意するポイントをまとめた。

#### 【反省点】

- ・出したままで道具を元の場所に片付けない。
- ・時間がないときの片付けが雑になってしまう。
- ・公共の場という意識が薄かった。
- ・物をまとめて置いていなかった。  
→その結果、誰のものかどこにあったものかわからなくなってしまった。段ボールが一番片付けられていなかった。
- ・整理整頓ができていなかった。
- ・絵画実習室の入口付近に道具を置いていたため、邪魔になっていた。
- ・他の団体が使っている場所を占領してしまっていた、また配慮がなかった。
- ・絵の具を乾かすために造形室の机に作品を放置してしまった。
- ・物の管理が雑だった。
- ・絵の具などの道具を少ないものから使わず、どんどん新しいものを開封してしまった。
- ・少なくなってしまった道具を捨てなかった。また少なくなった時点で先生に報告をしなかった。
- ・ハサミやテープなど道具の扱い方が適切ではなかった。  
(例) ハサミについたビニールテープ等のべたつきを取らなかった。
- ・テープ類の分類がしっかりできていなかった。

**【来年度に向けて】**

- ・片付けの時間をしっかりと取るべき。
- ・作業を開始する前に、二つの部屋の道具の位置などを把握するために写真を撮っておく。  
→初めの状態を全員で把握することで、適切に教室を使用できるのではないか。
- ・授業や他の団体も教室を使用しているということを把握し、自分たちだけの場所ではないということをしっかり意識して使用する。
- ・材料や作品の置き場所をしっかりと決める。
- ・道具の使い方をもっとしっかり確認する。
- ・自分たちのものと他の団体のものとを区別する。
- ・絵の具やボンドなど量に限りのあるものは、まずは少ないものから使う。
- ・また、少なくなってきたら先生に報告する。無くなったら捨てるなど管理を徹底する。

教室利用における環境整備マネジメントに意識的に取り組むことを通して、将来的には保育現場において教材室等の利用に関する実践力を高めることを期待している。

## V まとめ

本稿では授業実践報告として20XX年度に行われた「B基礎演習Ⅱ」の授業実践内容を報告した。特に保育者の資質向上における養成段階での大学の自主性、独自性を発揮した教育内容について着目して報告を行った。

その結果、保育方法の実践的学習に関しては、制作した遊具を組み合わせることで保育の環境を構成する実践的学習を行っており、学生は実際にマニュアルの中で「2歳児の発達に合っているか」「こどもの導線を考えて、遊具の配置の見当をつけておく」「遊具が破損した際の補強用の材料を持って行っておく」等の保育実践に係る視点や技術等の獲得に関する振り返りを行っている。特に子育て支援講座を経てから学園祭においてプレイルームを実施しているため、段

ボールを利用した遊具制作に係る計画、測定、運営、評価、改善を一連のサイクルの中で取り組むこととなった。その実践的学習から得られる「実践知」は、今後の養成課程での学びや保育現場での実践に活かされていくことが期待できる。

また本科目ではプレイルームマネジメントについて、組織体で分業体制を採用することにより、「トップマネジメント」「ミドルマネジメント」「ローマネジメント」等多層的なマネジメントを学ぶことが可能となり、その中でさらにリーダーシップやフォロアーシップを学ぶことができていたと推測される。さらにマニュアル作成を行うことにより、常にデータ収集を行い、情報共有を行う等保育現場において求められる情報マネジメント能力の一端も学習が可能になっていたと考えている。

今日の保育者養成、現職研修等ではマネジメントの重要性が高まる中、本科目での学習内容がどのように学生の保育実践力等を育む学習活動であったかの評価については継続的な検討課題であるが、今後もA大

学B学科では自主性、独自性を発揮した独自設定科目での授業実践を通して、保育実践力を高めるための養成教育に取り組んでいきたいと考えている。

## V 謝辞・付記

本授業科目にご協力いただいたプレイルーム参加者の皆様、C市幼児教育センター関係者の皆様、そして20XX年度A大学B学科一年次生に感謝申し上げます。

なお、本授業実践は主に古屋が指導を行い、田中がマネジメントの総括を行っている。また本報告に関する文責は田中にあることを付記する。

## VI 注

- (1) 本報告における組織とは、具体的にはプレイルーム実践を行うB学科一年次生組織を指し示す。

## VII 引用・参考文献

- 井上範子 (2015) 「研究授業『保育職基礎演習I』の実施報告」高松大学『研究紀要』62・63,179-200.
- 真下知子・張貞京・千古利恵子・本山益子 (2016) 「幼児教育学科における初年次演習の取り組み」『京都文教短期大学研究紀要』54,127-132.
- 森朋子・溝上慎一編 (2017) 『アクティブラーニング型授業としての反転授業[理論編]』ナカニシヤ出版.
- 新山順子・関崎哲 (2003) 「保育学生の自ら学ぶ力を育成する体験的授業の可能性—『保育内容総合演習』の試み」『岡山県立大学短期大学部研究紀要』10,123-137.
- 大嶋健吾・芝田圭一郎 (2017) 「保育者養成校におけるチーム制実践的演習授業に

ついて(1)」『大阪城南女子短期大学研究紀要』51,81-98.

P.F.ドラッカー著上田惇生訳 (2001) 『マネジメント—基本と原則』(エッセンシャル版),ダイヤモンド社.

沢登美美子・山田千明・高野牧子・池田政子・堀井啓幸・池田充裕・鳥居美佳子・古屋祥子 (2012) 「力量ある保育者養成教育の試み—『乳幼児観察研究』の授業を通して—」『山梨県立大学人間福祉学部紀要』7,49-58.

矢萩恭子 (2014) 「2歳児保育室「あそびば『ぼこあ』」における成果と課題—保育実践力養成と子育て支援の相互機能の側面から—」『田園調布学園大学紀要』(8),79-102.

2016年度 人間形成基礎演習Ⅱ

A大学B学科1年次生・古屋祥子・田中謙編 (20XX) 『20XX年度B学科幼児教育センター・学園祭プレイルーム遊具作成及び運営マニュアル』(未公開)

## **Developing Practical Competence of Progress the Qualifications of Childcare Workers through Experiences of Active Learning Class about Playroom Management in Training Education**

FURUYA Shoko (Yamanashi Prefectural University)

TANAKA Ken (Yamanashi Prefectural University)

### **Abstract**

The goals of the report were to consider active learning class about playroom management in University. This paper reported on autonomy and individuality education contents in childcare workers training education.

As a result of class, many students have learned support methods for children through experiences of active learning class about playroom management.

In addition, many students have learned management about “top management” “middle management” “lower management” and readership- followership.

### **Key words:**

**Developing Practical Competence of Progress the Qualifications of Childcare Workers**

**Active Learning Class**

**Playroom Management**

**Support Methods for Children**

**child-care support**